# 道ばたに見る夏・秋の草たち 市街地の生社の 広瀬重夫

# キクのなかまの夏草



キクのなかまは維管束植物(いかんそく植物)の中では最も種類が多く、約2万種と言われます。 2,3の夏草を通してその素顔にふれましょう。



写真 2 4 4、ハキダメギク 6 月、神仙寺通 1

写真 2 4 5、ブタクサ 神仙寺通 2

#### ハキダメギク

漢字で書けば「掃き溜菊」でしょうか。花は小さいですがまわりに白の舌状花、中は黄色の筒状花からできていて、春のページで説明があったように、多くのキク科のなかまの特徴を備えています。熱帯アメリカ原産の帰化植物で、畑の雑草として広がっています(写真244)。

#### ブタクサ

北米原産で、明治の中頃に関東地方で知られるようになり、いまや全国に広がっている帰化植物です (写真245)。

細長く立てた穂状のものは雄花だけの集合で、その一番下に苞葉(ほうよう)に囲まれた2つ3つが 雌花です。

キク科の多くのなかまが虫媒花なのに、このブタクサは風媒花で、北米では花粉症をおこす植物とされます。似たものにやはり同じ外来種のオオブタクサ(葉がクワに似る)がありますが少数派です。

なお、よく似た名前のブタナ(キク科)がありますが、これは春咲きで、花はタンポポ型で美しい。



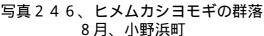




写真 2 4 7、ヒメムカシモヨギ (左)とオオアレチノギク (右) 9月、須磨寺 1

### ヒメムカシヨモギの群落

震災後の空き地などで大いに広がっているのは、北米産のヒメムカシヨモギです(写真 2 4 6 )。 ほっそりして背高く、ぎっしりと生えています。このヒメムカシヨモギは大群落をつくりやすい植物の ひとつです。まれに茎の上の方に小枝をたくさん出しているように見えるのが、オオアレチノギクで す。

#### ヒメムカシモヨギとオオアレチノギク

ヒメムカシヨモギには白い舌状花が見られます。一つ一つの花(頭状花)がヒメムカシヨモギよりも大きく、舌状花が見えないほうがオオアレチノギクです。2つ並べて比べてみると違いが分かりやすいです(写真247)。



写真 2 4 8、アレチノギク 2月、青谷町 2

与具 2 4 9、オオアレナノモル 1 0 月、狩口台 3

写真 2 5 0 、ヒメムカシヨモギ 2 月、琴緒町 1

## アレチノギク

春のページで紹介しましたが、比較のため、もう一度取り上げます。

細長い葉に、まばらに切れ込みがあります(写真248)。

#### オオアレチノギク

葉の先の方が幅広くなっています。こういう葉の形を倒披針形(とうひしんけい)といいます(写真249)。[倒」は「あたまでっかち」という意味です。

### ヒメムカシヨモギ

葉の柄が長くて、卵形の葉は紫色がかっていることが多いようです(写真250)。

上の3つは互いによく似ていますので、目印をしておいて追跡(ついせき)し、のちの様子を観察します。

春や夏にそなえて、冬の植物調べも楽しみのひとつです。

このページのPDFファイル



トップページへもどる